

1年間の豊富について

- ・出席11か所の訪問看護管理者が集まりました。
- ・去年のことは過ぎた事として、気持も新たに今年の抱負を話しました。

<豊富>

- A：経営の為にもなるので、元気な方を対象に希望者のみであるが自費で健康管理をしていきいつまでも地域に居られるような「看護の出前」をしていく時代と思う。
- B：併設の病院が火事になり、患者対応が大変であったと同時に日頃の訓練が重要であると痛切に感じた。電気系統がダメージを受けたので病院再開に1月かかる。ご迷惑をおかけします。病院も赤字なので、火事の影響もあり訪問看護への期待が大きい。
- C：訪問看護を開設して、半年が過ぎたが中々患者が増加しない。病院にもPRに行くが、病棟のNSや医師の意識が低く説明しても連携に繋がらない。自分たちのこれまでのPR不足も痛感しているし個人活動の限界を感じる。
- D：水戸地区の訪問看護・施設特にディが乱立している。すぐに家族も施設に入れてしまう傾向があるのかもしれない。これを解決するキーマンは、ケアマネである。計画に訪問看護を予防的に入れてくれるケアマネは少ない。今後のブロック会の方向性が、将来の訪問看護の位置づけになるのかもしれない。

<討議内容>

- ：ブロック会としての活動が必要になっている。
- ：具体的には、看護協会と連携していく必要がある。
- ：医師の在宅に対する姿勢を積極的にする方策が必要
- ：地域との密着の方策→在宅に関する講演、病院スタッフとの症例検討
- ：PR活動→パンフレット作成、ケアマネとの連携
- ：若年者のがん患者は、3割負担が大きくがん保険は訪問看護は適応外なので利用しづらい誘因になっている。→方策は？

<連絡事項>

- *東京都の訪問看護が、医師の指示書・看護計画なしで訪問していたことで不正請求となり摘発された。
→医師の指示書を何回請求しても、記入してくれないのも現実である。